

2014年度（平成26年度）事業報告
(2014年4月1日から2015年3月31日)

1 学術研究会、学術講演会の開催

(1) 第55回日本神経学会学術大会を次のとおり開催した。

- ・大会長 九州大学大学院医学研究院神経内科学教授 吉良 潤一
- ・会 期 2014年5月21日（水）から5月24日（土）までの4日間
- ・場 所 福岡国際会議場・福岡サンパレス・福岡国際センター

(2) 学術大会運営について

① 第59回学術大会大会長を選出した。

佐々木秀直 北海道大学大学院医学研究科神経病態学講座神経内科学教授

② 第56回学術大会（大会長 西澤正豊新潟大学脳研究所教授）の準備を行った。

2015年5月20日（水）から23日（土）までの会期で新潟市において開催される第56回学術大会の運営の準備を行った。

③ 学術大会の運営業務を学会事務局に移行するための準備を進めた。

事務局の学術大会運営体制を整備（2名配置）し、演題受付、プログラム・抄録の作成等の業務に着手するとともに、委託業務を学会が直接契約する方式に一部着手した。

(3) 地方会開催

各地方会を次のように開催した。

北海道地方会（2回）、東北地方会（2回）、関東・甲信越地方会（4回）、東海・北陸地方会（3回）、近畿地方会（2回）、中国・四国地方会（2回）、九州地方会（4回）

2 学会誌の発行

(1) 臨床神経学の発行

機関誌「臨床神経学」54巻4号～55巻3号を発行した。11号を通常号化し、学術大会発表論文等は12号に掲載した。

また、55巻1号から完全電子ジャーナル化するとともに、オープンアクセス化した。冊子体は希望者が少数であったため、有償配布を行わなかった。

(2) 英文機関誌の発行

英文機関誌「Neurology and Clinical Neuroscience」を2015/NO.5までを、隔月に電子ジャーナルで発行した。

(3) 診療ガイドライン作成

① 2011年度から関連学会等と協力して作成作業を進めていたデュシェンヌ型筋ジストロフィーおよび細菌性髄膜炎の2つの診療ガイドラインを出版した。

② 2013年度から作成に着手した単純ヘルペスウイルス脳炎およびジストニアの2つのガイド

ラインの作成を引き続き行った。また、平成 26 年度から運動失調症診療ガイドラインの作成に着手した。

- ③ 2009, 2010, 2011年に発行した、認知症、てんかん、多発性硬化症、パーキンソン病および遺伝子診断の5つのガイドラインについて、改訂版の作成に着手した。
- ④ 2013年度に出版した頭痛診療ガイドラインの英文版を作成した。本学会ホームページで公開する。

3 啓発活動

(1) 市民公開講座を次の予定で開催した。

- ・ 第55回学術大会開催時市民公開講座
2014年5月25日(日)九州大学医学部百年講堂

(2) 広報活動

海外に向けた広報を充実するため、学会ホームページの英文ページを充実した。

(3) 神経内科フォーラムの活動支援

神経内科と神経疾患を広報する新聞広告掲載を支援した。

4 研究奨励

(1) 日本神経学会賞および榊林賞の受賞者を決定した。

① 日本神経学会賞

「学術研究部門」

小野 賢二郎 金沢大学附属病院神経内科

フェノール化合物に焦点を当てたアルツハイマー病の予防・治療薬の開発

「診療部門」

橋本洋一郎ら熊本脳卒中地域連携ネットワーク研究会(神経内科グループ)熊本市民病院神経内科
地域完結型の脳卒中診療態勢の構築

② 榊林賞

貫名 信行 順天堂大学神経変性疾患病態治療検索講座

大脳基底核疾患研究の病態脳科学的展開

5 研究推進

(1) 将来構想の検討

将来構想委員会で、2013年8月に公表した「神経疾患克服に向けた研究推進の提言」の見直し作業を実施した。

(2) 他団体との連携協力

神経内科学、脳科学に関する研究を推進するために、日本学術会議、日本医学会、日本脳科学

関連学会連合、関連する他学会等と連携協力した。

6 専門医及び教育施設の認定

(1) 専門医

① 第40回専門医試験を次の通り実施した。

- ・ 第1次試験 2014年6月14日(土)(東京大学教養学部駒場キャンパス)
合格者数 201名
- ・ 第2次試験 2014年7月12日(土)(日本都市センター会館)
合格者数 198名

② 第20回専門医認定更新を実施した。

(2) 教育施設

① 施設認定更新

2015年4月1日から認定する施設認定について、認定手続き(新規及び更新)を実施した。

② 指導医認定

2015年4月1日から認定する指導医認定を実施した。また、2015年3月31日で認定期間が満了となる指導医の認定更新を実施した。

指導医認定(新規) 163名 指導医認定更新者数 143名

(3) 専門医制度

専門医制度の改革について、内科系関連学会と協力して制度の運営方法等について検討するとともに、神経内科領域における専門医育成のための教育・研修カリキュラムおよびプログラムの作成作業を行った。

7 会員を対象とした教育及び啓発活動

(1) 生涯教育講演会

- ① 第55回学術大会開催時に第11回生涯教育セミナー(レクチャーおよびハンズオンセミナー)を開催した。
- ② Neuromuscular Conference 共催でハンズオンセミナー「神経・筋生検」を平成26年8月3日、東京医科歯科大学において実施した。
- ③ 次の地区で生涯教育講演会を開催した。
北海道地区、東北地区、関東・甲信越地区、東海・北陸地区、近畿地区、中国・四国地区、九州地区。

(2) 専門医育成教育事業

- ① 第55回学術大会開催時に第3回専門医育成教育セミナーを開催した。
- ② 2014年11月1日(土)に千葉県船橋会場で第4回専門医育成教育セミナーを開催した。

(3) 卒前・初期臨床研修教育事業

神経内科への入局者増加を目的とする神経内科紹介DVDの制作に着手するとともに、教育施設での入局者増加への取り組みに関するアンケート調査を実施した。

(4) 教育コンテンツ配信事業

第55回学術大会時に開催した生涯教育セミナー（レクチャー）、専門医育成教育セミナーを収録し配信した（学会ホームページ会員専用ページから閲覧）。

また、DVD「徒手筋力検査」を制作し、学会ホームページで配信した。

(5) メディカルスタッフ教育事業

第55回学術大会開催時に、第2回目のメディカルスタッフを対象とした教育セミナーを実施した。

(6) Excellent Teacher 表彰事業の実施

学会主催の教育セミナーの講師や教育用動画制作で教育活動に貢献した会員を表彰した（8名）。

(7) 会員の研修支援に関わる新制度の検討

会員の研修を支援するため、フェローシップなどの新しい制度を検討した。

(8) 専門医テキストの作成

主に、専門医を受験する会員を対象としたテキストの作成に着手した。

8 診療向上のための活動

(1) 診療報酬改訂への取り組み

2016年度（平成28年度）診療報酬改訂のための準備を行った。

(2) 新薬承認審査の促進等に関する要望活動

神経疾患患者に対する医療の質の向上を図る一環として、胃瘻造設術など診療報酬改定に関する要望、メコバラミン筋注療法認可に関する要望、トピラマートなど未承認薬・適用外薬の開発要望など積極的に要望活動を行った。

9 国際協力

① WCN2017開催準備

- ・ WCN2017の運営のため組織委員会、諮問委員会、実行委員会、その他の委員会を設置するなど準備体制を整備し、本格的な準備活動を行った。その一環として、日本学術会議への共同主催申請を行い決定された。
- ・ WCN2017の運営の準備資金として、神経研究振興基金から資金の寄付を受けた。この資金は、学会の特別会計として管理・運用することとした。

② WCN、AOANなど国際学術集會に学会員が積極的に参加するよう、学会員に学会ホームページやメールにより広報した。

10 一般社団法人としての運営

① 代議員選挙

2015年3月に、3回目の代議員選挙を行った。

② 日本医学会連合との連携

一般社団法人日本医学会連合に協力し連携する活動を行った。